

## 初めて見る字を推理する

生れつき脚の弱い人でも脚を使へば強くなるやうに、生れつき頭の働きの悪い人でも頭を使ふことに努めれば必ず良くなります。だから、幼児期の幼児には頭を使ふやうに仕向けることが必要なのです。

所が、漢字を学習した幼児は、初めて見る漢字でも「何といふ字だらう」と自然に考へるやうになるものです。“目”を学習した子は“見”を見て考へずにはゐないのです。また、“鳩”“鶴”を知つてゐる子は、学習しない“鷹”や“鷲”といふ字を見ますと、「鳥の仲間だな。何といふ鳥だらう」と考へずにはゐません。この事が幼児の頭の働きを良くするので

私が大東文化大学附属幼稚園長を務めてゐた時の事です。ある教師が黒板に“悪魔”といふ字を書き、読める子を求めましたが誰も読めませんでした。それで教へようとしたら、子供たちが「待って。考へるから」と言ったのです。「読めない字をいくら考へたって解るわけが無い」と教師は思ったさうですが、子供に言はれた通り待つことにしたさうです。すると、子供たちは相談を始めました。「下の字には“鬼”といふ字がある」「さうだ。だから鬼の仲間には違ひない」「上の字は昨日の新聞にあった“凶悪犯人”のどれかだと思ふよ」「ぢやあ、キョウか、アクか、

ハンか、ニンだ」「解つた。アクマだ」「さうだ・アクマだ」といふやり取りがあつて、「先生。その字はアクマでせう」と言つてその教師を驚かしたのです。